

BIG CIRCLE 大きな輪

2014年 春号



基地内イベントカレンダー

6月

- ・フォスター・フリーマーケット
6月 7・8日 12:00-15:00
- ・コートニー・フリーマーケット
6月14・15日 7:00-10:00
6月28・29日 7:00-10:00
- ・キンザー・フリーマーケット
6月21・22日 12:00-15:00

普天間フライトラインフェア
6月 7・8日 14:00 - 22:00

7月

- ・フォスター・フリーマーケット
7月 5・6日 12:00-15:00
- ・コートニー・フリーマーケット
7月12・13日 7:00-10:00
7月26・27日 7:00-10:00
- ・キンザー・フリーマーケット
7月19・20日 12:00-15:00

フリーマーケットの日程・場所は変更になる可能性があります。最新の情報はwww.mccsokinawa.com/fleamarket または 098-970-5829まで。英語に続いて、日本語のアナウンスが流れます。雨天の場合はキャンセルになることがありますのでご注意ください。尚、出店は米軍・軍属のID所持者に限らせていただいております。

8月

- ・フォスター・フリーマーケット
8月 2・3日 12:00-15:00
- ・コートニー・フリーマーケット
8月 9・10日 7:00-10:00
8月 23・24日 7:00-10:00
8月 30・31日 7:00-10:00
- ・キンザー・フリーマーケット
8月 16・17日 12:00-15:00

キャンプハンセン
フェスティバル
9月 6・7日 14:00 - 22:00

大きな輪 あて先

〒901-2300

沖縄県中頭郡北中城村石平
在沖海兵隊基地 Bldg.1, CPAO (UNIT 35001)
大きな輪 編集係

E-MAIL: okinawa.mcbb.fct@usmc.mil

TELEPHONE: (098) 970-9403

FAX: (098) 970-3803

「大きな輪」は、性別・年齢・国籍を問わず、多くの読者の皆様のご意見、ご感想、ご質問をお待ちしております。氏名・住所・電話番号を明記の上、ファクシミリ、eメール、または封書にて下記の「大きな輪」編集係まで送りください。掲載させて頂いた方には、「大きな輪」各号を郵送いたします。お待ちしております。



twitter

日本語のツイッターもあります！
ぜひフォローしてみてください。

on the cover



Lance Cpl. Alex Sokolowski collects litter from an Okinawan child April 20 during the cleanup of the Nature Mirai Kan Park Area as part of an event celebrating Earth Day. 4月20日、ネイチャー未来館でのアースデーの清掃活動中、沖縄の園児からゴミを受け取るアレックス・ソコロフスキー上等兵。
Photo by Lance Cpl. Abbey M. Perria

各基地 渉外官への お問合せは

基地渉外官は、在沖米軍各基地と地域社会との架け橋です。各基地の渉外プログラムについては下記までお問合せください。電話でのお問い合わせは以下の通り。Eメールでご連絡される場合は、okinawa.mcbb.fct@usmc.milまで。件名の欄にお問い合わせ先のキャンプ名をご記入ください。

シュワープ(名護市)
[交換] 098-970-5555
[内線] 625-2544

ハンセン(金武町)
098-969-4509

コートニー(うるま市)
098-954-9561

フォスター(北谷町・他)
098-970-7766

普天間(宜野湾市)
[交換] 098-970-5555
[内線] 636-2022

キンザー(浦添市)
[交換] 098-970-5555
[内線] 637-1728

海軍病院(キャンプフォスター内)
[098-971-7024]

嘉手納基地
(第18航空団広報局渉外部)
098-939-7812

トリステーション
(在沖米陸軍基地管理本部)
098-956-0142

在沖米海軍(嘉手納基地)
098-961-6748

大きな輪 BIG CIRCLE



2014年 春号

もくじ



Friendly competition

pg. 14

Kenji Ginoza, a member of the Kin Town Table Tennis Club, rallies with Lt. John Potter, Navy chaplain, at the Kin Town Education Center Gym Feb. 15 during the friendly tournament between the club and Marines and sailors of Camps Foster and Hansen. 2月15日に金武町教育センター体育館で行われた金武町卓球同好会とキャンプフォスター&キャンプハンセンの海兵隊員や海軍兵との試合で、従軍牧師のジョン・ポッター大尉に向かって球を打ち返す宜野座健次さん。Photo by Pfc. Donald T. Peterson

- | | | |
|---|---|--|
| 2 イベントカレンダー | 9 試合に花を添える
女子サッカーのエキシビ
ジョンマッチで第三海兵
遠征軍音楽隊が演奏 | 15 災害時避難協定
浦添市でも災害時の
基地内通行が可能に |
| 3 沖縄警察署から感謝状
トレーラー事故現場での
迅速な対応を評価 | 11 イベントハイライト
友好を深めた出来事を
振り返る | 17 災害対応合同訓練
キャンプハンセンと
金武町関係機関が
災害に備える |
| 5 路上の負傷者を救助
素早い判断で二次災害を
防ぐ | 13 インターン卒業式
日本人医師が海軍病院
での1年を終える | 15 ピンポン友好試合
金武町卓球同好会と
友好試合 |
| 7 英語プログラム
名護市内の中学生と
ゲームや寸劇を楽しむ | | 21 インタビュー |

Marines receive awards for emergency response to fatal accident on Okinawa highway

Lance Cpl. Diamond N. Peden
Hiroko Tamaki

Kojin Chibana, chief of the Okinawa Police Station, presented letters of appreciation Feb. 26 to six Marines who assisted emergency personnel during a fatal accident on Highway 330.

The chief presented the awards to the Marines for their immediate response to the Jan. 13 wreck that occurred in Zukeran, Kitanakagusuku Village. The accident happened when a flatbed semitrailer unhitched then collided with two passenger vehicles. The incident resulted in the death of three Japanese motorists and the injury of three.

Lance Cpl. Steven Danisi, an accident investigator, happened to be driving behind the (flatbed semitrailer) and saw the accident, according to Moriyoichi Teruya, an assistant police inspector with the traffic investigation section, Okinawa Police Station.

“He pulled over and immediately worked on rescuing victims, and sent a radio notification to his office,” said Teruya. “The five Marines came to the scene, and together they responded to the accident (until) the Japanese police arrived.”

Once the Marines were on site, they were able to assist many of the victims while waiting for Okinawa police officers, according to Danisi.

“The Camp Foster military police arrived and helped get people out,” said Danisi. “(Marine Corps Fire and Emergency Services personnel) showed up on scene to get the people that were trapped in the vehicles out. The local police arrived minutes later. We all tried our best to help them out and get the individuals out of the cars, so they could get the proper medical attention they needed. We did all we could.”

The three departments had not trained together before, but this did not impede anyone from aiding those involved.

“I guess if you were outside looking in, it was really impressive to see everyone – people who have never spoken to each other, don’t even speak the same language, and have never trained together – working efficiently side-by-side,” said Staff Sgt. Michael S. Rice, a military policeman and patrol supervisor. “That’s the purpose of our job. It doesn’t matter who you are, I have a job to do and that’s what I’m going to do. That’s the way the local police department looks at it too.”

The accident was devastating, drawing the attention of nationwide media. However, Chibana attributes the Marines’ training and calm in the face of a stressful situation to the quick, effective response they provided.

“That accident set unprecedented severity (for this kind of trailer accident). Any untrained person would have had no idea what to do,” said Chibana. “Because they were trained Marines, they could save lives and preserved the scene.”



Six Marines who received letters of appreciation stand in front of the Okinawa Police Station with other members of the Provost Marshal’s Office, as well as the representatives of the police station Feb.26. The letters of appreciation were awarded for the assistance the Marines provided to Japanese emergency personnel when a trailer accident occurred in Kitanakagusuku Jan. 13. 2月26日、沖縄警察署の前に並ぶ6名の海兵隊員と憲兵隊の他の隊員および沖縄警察署の職員。6名は、1月13日に北中城村でトレーラー事故が発生した際に、現場で日本の警察を支援したとして感謝状を授与された。Photos by Lance Cpl. Diamond N. Peden



Kojin Chibana, chief of the Okinawa Police Station, right, applauds Lance Cpl. Steven T. Danisi, left, during an awards ceremony Feb. 26 at the Okinawa Police Station in Okinawa City. Danisi was one of six Marines to receive awards for their immediate response to the Jan. 13 accident that occurred in Kitanakagusuku Village. 2月26日に沖縄警察署で行われた感謝状贈呈式で、スティーブ・T・ダニシ上等兵(左)を称える知花幸順署長。ダニシ上等兵と他5名の海兵隊員は、北中城村で1月13日に発生したトレーラー事故に即座に対応したとして感謝状を贈呈された。

トレーラー事故への対応で 沖縄警察署から感謝状

県道330号線で交通死亡事故が発生した際に、現場で警察官や消防隊員を支援した6名の海兵隊員に対し、2月26日、沖縄警察署の知花幸順署長から感謝状が授与された。

1月13日に、北中城村瑞慶覧でトレーラーが牽引する荷台がはずれ乗用車2台に衝突する事故が発生したが、感謝状はこれに迅速に対処したことに対するものだった。この事故で、日本人3名が死亡、3名が負傷した。

沖縄警察署交通捜査課の照屋盛良事故捜査係長によると、海兵隊憲兵隊の交通事故捜査員スティーブ・ダニシ上等兵が、たまたまトレーラーの後ろを車で走っていて事故を目撃したという。

「彼は車を止めるとすぐに被害者の救助にあたり、また自分の職場に無線で連絡を取ったんです。すぐに5名の憲兵隊員が来て、日本の警察が到着するまで現場で対処してくれました」と照屋さんは話した。

ダニシ上等兵によると、5名の海兵隊員が到着すると、地元警察の到着を待つ間多くの被害者を助けることができたという。

ターの憲兵隊が到着して、人々の救助にあたりました。(海兵隊の消防隊員も)車内に閉じ込められた人を救出するため現場に到着しました。数分後には地元警察も到着し、車内から被害者を救出し適切な治療を受けられるようにするため、全員が最善を尽くしました。できることは全てしました」と語った。

憲兵隊、海兵隊消防、沖縄警察署の3者は合同訓練などしたことはなかったが、それは事故の被害者救出の障壁にはならなかった。

「端で見ていた人には、かなり印象的な光景だったでしょう。個人的に話したこともなく、同じ言葉を話すわけでもなく、合同で訓練したこともない人たちが、一緒になって効率よく対処していたんですから」と話すのは、憲兵隊員で巡回監督者のマイケル・S・ライズ二等軍曹。「それが、我々の仕事の目指すところなんです。相手が誰であろうと関係なくやるべきことがあってそれをやる。沖縄の警察も同じでしょう。」

事故は、全国ニュースになるほど重大なものだった。しかし知花署長は、その緊迫した状況にあって海兵隊員が素早く効果的に対応できたのは、

彼らの冷静さと訓練のおかげだと考

える。

「事故は、(この種のトレーラー事故としては)例が無いほど悲惨なものでした。普通の人なら対応できなかったでしょう。訓練された海兵隊員だったからこそ、人命救助や現場確保ができたのです。」(文・写真 ダイヤモンド・ペイデン上等兵/玉城弘子)

海兵隊員が路上の負傷者を救助

2月18日の夜、恩納村付近で国道58号線を横断中の男性が原付バイクにはねられる事故が発生し、3名の海兵隊員が、怪我をした男性に迅速に応急処置を施した。この3名は、アンソニー・J・サンダース二等軍曹、ジョン・ジョイス二等軍曹、ジョシュア・K・クケンダル三等軍曹で、帰宅途中、男性が怪我をしている様子で道路に横たわっているのを発見し、すぐさま助けに走った。

「アメリカン・ビレッジで夕食を楽しんでキャンプシユワープに帰る途中でした。男性が道路に横たわっているのが見えたくて、助けが必要と感じました」と話す揚陸強襲中隊の回収担当兵サンダース二等軍曹。

海兵隊員らは、他の日本人の手を借りて負傷した男性の周りに安全なスペースを確保し、持っていたものを使い適切な応急処置を施した。

揚陸強襲中隊の品質管理担当兵クケンダル三等軍曹によると、彼らはまず洋服を使って被害者の頭と首を支えたという。またリュックサックで背中を支え、

さらに男性が震えだすと、セーターをかけて男性が冷えないようにした。

金武地区消防衛生組合恩納分遣所救急医療隊の宜野座義光隊長は、海兵隊員らの行動は非常に有難かったと話す。

後日取材に応えた宜野座隊長は、「事故現場は街灯もなく暗いうえに交通量も多いので、海兵隊員の迅速な行動で交通整理をしてくれて、二次災害や三次災害を防ぐことができました。負傷者に対しては、救急隊が到着するまで自分たちの服で体を温めてくれていました。本当に感謝しています」と語った。

海兵隊員は、適切な処置が施されたのは、海兵隊で受けた様々な訓練のおかげだと言った。クケンダル三等軍曹は、新兵訓練、野外訓練および日々行っている数々の安全手順を通

して得た知識により、危険な状況に関する知識や対処技術が身に付いたと述べ、「私たちは、チームワークを発揮してお互いを助けながら、負傷した男性を助けたのです」と付け加えた。

揚陸強襲大隊の上官タイレル・L・キャンベル大尉は、3名の海兵隊員は、見知らぬ負傷者を助けることで海兵隊のリーダーが持つ多くの資質を示したと語る。

「この海兵隊員たちが助けを必要としている人に手を差し伸べたことは、我々の戦士としての倫理を表すものであり、海兵隊全体への信頼を高めました。国籍、人種、宗教に関わらず、海兵隊員はどこにいようと他人のために尽くします。憧れのある海兵隊の記章に描かれている地球儀は、世界中で活動することを表しています。それが海兵隊員の任務なのです。」(文 スティーブン・ハイムス上等兵)



Lt. Gen. John Wissler (second from left) congratulates Staff Sgts. Jon Joyce (left) and Anthony J. Sanders (second from right) and Sgt. Joshua K. Kuykendall for their quick action to help an injured man on Route 58 Feb. 18. 2月18日に国道58号線で負傷して横たわっていた男性を助けたとして、ジョン・ウィスラー中将(左から2人目)に称えられるジョン・ジョイス二等軍曹(左)、アンソニー・J・サンダース二等軍曹(右から2人目)、ジョシュア・K・クケンダル三等軍曹。 Courtesy photo by Staff Sgt. Anthony J. Sanders



Marines rapidly respond to injured Okinawa resident

Lance Cpl. Stephen Himes

On the night of Feb. 18, three Marines reacted quickly and selflessly to provide aid to an injured man.

An Okinawa resident was crossing Route 58 near Onna Village when a moped struck him. Three Marines, Staff Sgts. Anthony J. Sanders and Jon Joyce along with Sgt. Joshua K. Kuykendall, noticed the man who appeared to be injured lying in the road on their way home and rushed to provide aid.

“We were headed back to Camp Schwab after enjoying dinner in American Village,” said Sanders, a recovery chief with Amphibious Assault Company. “We saw the man lying in the road and first-responders hadn’t arrived yet. (He) looked like he needed help.”

With help from other Japanese citizens, the Marines created a safety area around the injured man and proceeded to provide appropriate aid using various items they had on hand.

They used pieces of clothing to brace the victim’s head and neck, according to Kuykendall, a quality control chief with Amphibious Assault Co. They used a backpack to help brace his back and, when he began to shiver, a sweater was used to keep the victim warm.

The assistance they provided was greatly appreciated, according to Capt. Yoshimitsu Ginoza, a chief paramedic with the Onna Detachment, Kin District Fire Station.

“There are no street lights at the site of the accident while traffic load is high. The Marines took action swiftly and controlled traffic, which

prevented a second or third accident,” said Ginoza days later. “They also kept the injured man warm with their clothing. We really appreciate them.”

The Marines credit the variety of training they received while in the Marine Corps for their ability to provide appropriate aid.

Kuykendall said knowledge attained during recruit training, field training and numerous safety procedures followed daily provided the understanding and skills necessary for the precarious situation.

“We acted together as a team, helping each other to help the injured man,” added Kuykendall.

By aiding an injured stranger, the three Marines epitomized multiple Marine Corps leadership traits, according to Capt. Tyrel L. Campbell, the executive officer of Amphibious Assault Co.

“Those Marines lending a hand to a person in need exemplifies our warrior ethos and promulgates an environment of trust for our entire branch of service,” said Campbell. “Regardless of what nationality, ethnic background or religious preference, Marines serve others wherever they are. The globe in our coveted emblem represents worldwide service – it is what Marines do.”

言葉の壁を越えて

言葉は、コミュニケーションや文化的アイデンティティの重要な要素ではあるが、独特の文化を作るもののほんの一部でしかない。

海兵隊員15名とその家族が、名護青少年の家で行われた名護市教育委員会の教育プログラムに参加して沖縄の子供たちにボランティアで英語を教え、自分たちの文化のごく一部を紹介した。

名護市教育委員会の新垣みゆき指導主事は、「名護市教育委員会は、英語教育に力をいれたプログラムを色々と行って、これもその一つです」と述べた。

ボランティアの参加者は、さまざまなフレーズを使って子供たちに英会話を教えた。

第35戦闘兵站連隊の弾薬担当技師カーティス・K・ブラウン伍長は、「沖縄の子供たちが（英語を）話せるようにと思って来ました」と話す。午前中は自己紹介をし、グループに分かれてゲームをした。午後は、海兵隊員や保護者による「白雪姫」の劇を見た後、チームに分かれて物語の続編を作るという課題を与えられた。その中で、生徒は英語のセリフを、アメリカ人は日本語のセリフを盛り込むことが条件となった。

参加した第三海兵遠征軍パイロットのデビン・O・リックライダー中佐は、このプログラムのおかげで、米軍人と沖縄の人々が学校や仕事を離れて交流することができたと話した。

「ただ同じ場所にいるだけでほとんど話もしないのと違って、直接触れ合って話をし、実際に彼らがどんな事に興味があるのかを知ることができました。」

最初は、お互いに相手の言葉を流暢に話せない

ため交流も限られていたが、時間が経つにつれてコミュニケーションが楽になっていった

と話すのは、羽地中学校の喜瀬美南海さん。「通じるかどうか不安

だったけど、すぐに分からないと思わないでよく聞いてみると、分かるようになった。」

ブラウン伍長によると、海兵隊員らは、地域の

のために時間を費やすことは、やりがいがある上に楽しいことだと感じたという。

「子供たちの笑顔を見て、彼らに楽しい1日を過ごしてもらえたと感じるのが、海兵隊員がここに来る動機付け

になっていると思います。子供たちが夢中になって笑っていると、私もやる気が出ます。」

名護中学校の宮城周子さんは、参加者にとって、このプログラムは楽しくて貴重な経験だったと言

い、「楽しかった。英語で外人といろんなことを聞いたり話したりして楽しかった。カタコトの英語でも通じることが分かった」と述べた。(文 セドリック・R・ハラ上等兵)

Lt. Col. Devin O. Licklider and middle school students from Nago City work together to come up with a skit of their own sequel to "Snow White" Feb. 22 during an English program at the Nago City Youth Center. 2月22日に名護青少年の家で行われた英語プログラムの中で、「白雪姫」の続編を考えるデビン・O・リックライダー中佐と名護市の中学生。 Photo by Lance Cpl. Cedric R. Haller II



Marines break language barrier with Okinawa community members

Lance Cpl. Cedric R. Haller II

While language is an important element of communication and cultural identity, it is only a small part of what makes a culture unique.

Fifteen Marines, along with some of their family members, volunteered to share a small part of their culture by teaching English to Okinawa children Feb. 22 at the Nago City Youth Center as part of a Nago City Board of Education program.

"The Nago City Board of Education has various programs for promoting English education, and this (event) is one of them," said Miyuki Aragaki, a supervisor with the board of education.

The volunteers taught the participants how to speak conversational English using a variety of phrases.

"We are here to make sure that (Okinawa children) are comfortable speaking (English)," said Cpl. Curtis K. Brown, an event participant and ammunition technician with Combat Logistics Regiment 35. During the event, partici-

pants introduced themselves and played some games in the morning. In the afternoon, they watched a performance of the play "Snow White" by the Marine volunteers and parents. Then they split into teams and were challenged to formulate a sequel to the play in which they had to include certain English phrases, and the U.S. volunteers had to use certain Japanese phrases.

The event allowed both U.S. service members and Okinawa citizens to interact outside of work or business, according to Lt. Col. Devin O. Licklider, an event participant and pilot with III Marine Expeditionary Force.

"It's firsthand interaction, not just being in the same place (with little) interacting at all," said Licklider. "We actually got to talk and find out what they enjoy."

Interaction between the two groups was initially limited by the inability to fluently speak each other's languages, but as the event continued communication became easier, according to Minami Kise, a student at Haneji Middle School.

"I was worried if I couldn't communicate (with the volunteers)," said Kise. "Listening to English was difficult at first, but when I didn't give up and instead focused on listening, I could understand what was said."

The Marines found that spending time to give back to the community was rewarding as well as enjoyable, according to Brown.

"I think seeing smiles on the kids' faces, knowing that you impacted their day, is what motivates a lot of Marines to come out here," said Brown. "When the kids are actually engaged and laughing, (that) motivates me."

For the participants, the event was also a pleasant and a valuable experience, according to Shuko Miyagi, a student at Nago Middle School.

"I had fun," said Miyagi. "I enjoyed listening and speaking to the Americans in English. I learned that I could communicate with them (despite my limited) English."

Students of Nago City and Marines perform a skit of their own sequel to the play "Snow White" during an English program at the Nago City Youth Center Feb. 22. 2月22日に名護青少年の家で行われた英語プログラムで、自分たちで考えた「白雪姫」の続編を演じる名護市の中学生と海兵隊員。 Photo by Lance Cpl. Cedric R. Haller II



Camp Schwab volunteers and Nago City middle school students play a game together during an English program at the Nago City Youth Center Feb. 22. 2月22日に名護青少年の家で行われた英語プログラムで、グループに分かれてゲームをするキャンプシュワブのボランティアと名護市の中学生。 Courtesy photo by Tetsuya Kamiya



Middle school students of Nago City and Marines perform a skit of their own sequel to the play "Snow White" during an English program at the Nago City Youth Center Feb. 22. 2月22日に名護青少年の家で行われた英語プログラムで、自分たちで考えた「白雪姫」の続編を演じる名護市の中学生と海兵隊員。 Courtesy photo by Tetsuya Kamiya

第二海兵遠征軍音楽隊

サッカーの試合に 花を添える

鮮やかな制服に身を包んだ第三海兵遠征軍音楽隊（III MEFバンド）が、切れのいい動きで競技場に足を踏み入れ、待ち受ける観客の正面に立った。

3月23日に沖縄市の泡瀬総合運動公園で名高い女子サッカーチーム同士の試合「ファミリーマートドリームマッチ」が行われ、III MEFバンドが演奏したのだ。試合で対戦したのは、2013年国際女子サッカークラブ選手権の優勝チームであるINAC神戸レオネッサと、2013年全米大学選手権チャンピオンのカリフォルニア大学ロサンゼルス校ブルーインズだった。

III MEFバンドは、通常は米軍が中心となるイベントなどでコンサートを行っているが、沖縄のサッカーチームFC琉球からドリームマッチでの演奏の依頼を受け、それまで演奏したことのない会場で新たな観客のために演奏する機会に飛びついた。

FC琉球広報担当の松本麻里さんは、「普段サッカーの試合で見られない演奏でしたので、とても素敵で感動しました。III MEFバンドの皆さんも旗を持っていた（軍旗衛兵）4名もプロフェッショナルで、一つ一つの動きが揃っていて、見ているだけでも楽しませてくれました。演奏もとても良かったです」と話した。

な試合の結果、3対2で神戸レオネッサが米チームに勝利した。

松本さんはIII MEFバンドも観客を楽しませたと話し、今後の試合でFC琉球とIII MEFバンドがコラボレーションできる機会に期待を寄せた。

「日本人の観客はとても感動していて、演奏中も写真を撮ったり見入ったりしていました。（演奏を）リクエストしてとても良かったと思います。今後は、FC琉球の試合でもぜひ演奏して欲しいと思います。」（文・写真ダイヤモンド・N・ペイデン上等兵）

ブルーインズの多くの選手にとって、沖縄に来るのも初めてならば、III MEFバンドの演奏を聴くのも初めてだった。

ブルーインズのデイフェンス、アビゲイル・L・ダールケンパー選手は、「太平洋を越えて日本に来られるなんて素晴らしい経験です。この選手たちの技術を見て、ここでプレーして、そしてチームみんなで異文化を体験することで、私たちの結束が強まると思います。III MEFバンドは、（日本の）国歌と私たちの学校の校歌を演奏してくれました」と語った。

III MEFバンドでパーカッションを担当するジョン・M・ローサル上等兵は、バンドのメンバーはめったにないイベントと観客のために演奏できて非常に喜んでいただと話し、「みんな（演奏に）集中してたよ。米軍と関係のない観客のために演奏するのは、また違った雰囲気だったね」と述べた。

対戦した両チーム共この経験を楽しみ、沖縄で対戦できたことに感謝しているとダールケンパー選手は言う。

「世界でトップの選手たちやチームと対戦できたのは、本当にいい経験でした。とても楽しかったし、名誉に感じました。」
スピードに溢れるエキサイティング



Abigail L. Dahlkemper (center) prepares to kick a soccer ball March 23 while competing in the Family Mart Dream Match at the Okinawa Comprehensive Athletic Park in Awase, Okinawa. The game was played between the International Athletic Club Kobe Leonessa and the University of California, Los Angeles Bruins. 3月23日に沖縄市の泡瀬総合運動公園で行われたINAC神戸レオネッサとカリフォルニア大学ロサンゼルス校ブルーインズの試合で、ボールをキックしようとするアビゲイル・L・ダールケンパー選手(中央)。Photos by Lance Cpl. Diamond N. Peden

III MEF Band performs at exhibition soccer match

Lance Cpl. Diamond N. Peden

The III Marine Expeditionary Force Band stepped onto the track surrounding the soccer field with sharp uniforms and crisp drill movements, facing a stadium full of expectant fans.

The band performed at the Family Mart Dream Match, an exhibition game between two well-known women soccer teams, March 23 at the Okinawa Comprehensive Athletic Park in Awase, Okinawa.

The match was between the International Athletic Club Kobe Leonessa, winners of the Mobcast Cup International Women's Club Championship in 2013, and the University of California, Los Angeles Bruins, the U.S. college team that won the National Collegiate Athletic Association Division I Championship in 2013.

The III MEF Band traditionally plays concerts for the community at military-oriented functions. But, when Okinawa soccer club FC Ryukyu invited it to perform at the match, the band took the opportunity to perform at a new venue for a new audience.

"(The soccer game) was the first time for many of the Japanese audience to see (the band), and they were curious," said Mari Matsumoto, a public relations officer with FC Ryukyu. "It was fantastic, and I was impressed because we usually don't get to see their performance at soccer games. The musicians and four color guards were professional, coordinating each and every move well, and it was fun to watch. The music was very good, too."

For many members of the UCLA team, this was their first time traveling to Okinawa, and their first experience with the III MEF Band.

"It's amazing getting to travel across the Pacific to Japan," said Abigail L. Dahlkemper, a defensive player for the Bruins. "I think seeing the skills that these players bring, being able to play here, and getting to experience the culture together as a team is definitely going to help us (bond). The band performed the (U.S. and Japan) national anthems and our school song."

Band members were excited to perform for a unique event and crowd, according to Lance Cpl. John M. Rosal, a percussionist with the band.

"Everybody gets into (the performance)," said Rosal. "It was a different dynamic for the band in that we are actually performing for a nonmilitary audience."

Both teams enjoyed the experience, and they appreciated the opportunity to play against each other in Okinawa, according to Dahlkemper.

"It was a really good experience playing against some of the best players in the world and one of the best club-teams in the world," said Dahlkemper. "It was so enjoyable, and we're honored to be here."

The fast-paced and exciting game resulted in a 3-2 win for INAC Kobe Leonessa over their U.S. competitor.

The III MEF Band also entertained the audience, according to Matsumoto, encouraging FC Ryukyu and the band to collaborate on future events.

"They were very impressed," said Matsumoto. "Some of them were taking pictures or watching with rapt attention. We are very glad that we requested (for the band to play at the game). We definitely want them to perform again in the future at FC Ryukyu's games."

The III MEF Band performs at the opening of the Family Mart Dream Match March 23 at the Okinawa Comprehensive Athletic Park in Awase, Okinawa. The game was played between the International Athletic Club Kobe Leonessa and the University of California, Los Angeles Bruins. 3月23日に沖縄市の泡瀬総合運動公園で行われたINAC神戸レオネッサとカリフォルニア大学ロサンゼルス校ブルーインズの試合の開会式で演奏する第三海兵遠征軍音楽隊。





Marines pick up litter on Araha Beach March 28 as part of a camaraderie-building event. The Marines were divided into groups to cover different areas where they could clean up trash. 3月28日、下士官らが結束を高めるためアラハビーチで清掃活動を行い、グループに分かれてゴミを拾った。
Photo by Lance Cpl. David N. Hersey

Event Highlights

Fostering friendship

友情を深める



Members of the Marine Corps participated in the motorcycle safety awareness campaign initiated by the Ishikawa District Traffic Safety Association and Ishikawa Police Station March 2. 3月2日、石川地区交通安全協会と石川警察署が主催した二輪車事故防止パレードに、在沖塚海兵隊のメンバーも参加した。 Photo by Hiroko Tamaki



Kin Town Mayor Tsuyoshi Gibu (rear), Camp Hansen Commander Col. Stephen B. Lewallen Jr. (front) and Sgt. Maj. Howard L. Kreamer plant a ceremonial Christmas tree on Camp Hansen Jan. 30. The tree was planted as a symbol of friendship between the local community of Kin Town and Camp Hansen. 1月30日に、金武町とキャンプハンセンの友好の象徴として同キャンプ内にクリスマスツリーを植える儀武剛金武町長(奥)、キャンプハンセン司令官スティーブン・ルワレン大佐(中央)、ハワード・L・クリーマー先任曹長。
Photo by Cpl. Anne K. Henry



U.S. Marine Capt. Andrew Bohn breaks away from a tackle March 29 during a rugby match between the Japan Self-Defense Force Naha Rugby Football Club and the Camp Hansen team Kaiju on Camp Hansen. 3月29日にキャンプハンセンで行われた、自衛官から構成される那覇ラグビーフットボールクラブとキャンプハンセンのフットボールチーム怪獣との試合で、タックルをかわすアンドリュー・ボン大尉。
Photo by Lance Cpl. Pete Sanders



Maj. Andrew A. Merz (first row third from left) poses for a photograph with several other award recipients during an event held at the Ishikawa Police (Station) Feb. 20. The letter of appreciation was awarded to Camp Hansen in recognition of the ongoing relationship between the base and surrounding communities. 2月20日に石川警察署で行われた表彰式で、他の受賞者と共に記念撮影に応じるアンドリュー・A・メルズ少佐。周辺地域と継続的な関係を維持していることを称し、キャンプハンセンに感謝状が贈られた。 Photo by Lance Cpl. Joey S. Holeman Jr.



Japan Ground Self-Defense Force officer candidate Sgt. Maj. Satoshi Igeta (left) tries a Marine Corps disarming technique on U.S. Marine Cpl. Dajon Snead at Camp Schwab Feb. 27 during the Japan Observer Exchange Program aboard Camp Schwab. 2月27日にキャンブシュワブで行われた自衛隊との幹部交流プログラムで、ダジョン・スニード伍長に対し武器所持者に対処する術を試す陸上自衛隊幹部候補生の井下田 敬曹長。 Photo by Lance Cpl. David N. Hersey



Ryuta Arashiro runs toward the finish line during a friendly competition between firefighters of the Ginowan City Fire Department and Marine aircraft rescue and firefighting specialists with Headquarters and Headquarters Squadron and Marine Wing Support Squadron 172 Jan. 31 at Marine Corps Air Station Futenma. 1月31日に海兵隊普天間基地で行われた宜野湾市消防本部と本部司令部大隊および第172海兵航空支援中隊の友好消防競技会で、防護服を着用してゴールへと走る新城龍太さん。 Photo by Lance Cpl. Stephen D. Himes

Japanese physicians complete internship at U.S. Naval Hospital

Hiroko Tamaki

Six Japanese physician interns proudly stood as the U.S. and Japan national anthems marked the opening of a graduation ceremony at the United States Naval Hospital Okinawa March 21.

The interns, having just spent a year filled with valuable experience, learned about and were each a part of the Western-style medicine and care provided through the hospital.

The interns rotated between 12 medical specialties at the hospital and further honed their practice patterns by undergoing an evidence-based medicine curriculum, according to Lt. Cmdr. Jenny P. Chen, program director. The interns also served as medical translators for Japanese spouses who seek care at the hospital. The interns also served as liaisons between the Naval Hospital and Japanese hospitals on Okinawa.

"The interns have coordinated transfers of numerous American patients requiring care at Okinawan hospitals for services not available at our facility, such as pediatric intensive care, cardiac catheterization, and certain subspecialized surgical procedures," said Chen. "By building bridges with Okinawan physicians, they have ensured that our patients receive the very best care available."

The internship program serves as a

springboard for those who want to study or practice medicine in the U.S., according to Reiichiro Obata, one of the interns.

"This is a very attractive program, which has helped interns to go to the United States after graduation for more than 20 years," said Obata. "The medical culture in Japan and America are somewhat different, and the medical practice I want to do is closer to that of the States."

While practicing the Western-style of medicine in the English-speaking environment of U.S. Naval Hospital Okinawa, the interns vastly improved their language skills.

"The language barrier was the toughest challenge, but now I understand much better and I can carry discussions in English," said Keiji Akamine, another graduating intern. "I examined patients and reported the results to the hospital doctor. Then we discussed what the best treatment would be. I think that helped me improve my English."

This year's group of interns faced some extra challenges starting with a typhoon that struck on their scheduled interview day to the hospital's relocation from Camp Lester to Camp Foster, according to Lt. Cmdr. Evan Williamson, assistant program director.

"The day of their interviews (we were hit by) Typhoon Jelawat. They were asked

to delay one day for safety reasons," said Williamson. "Then there were challenges, of course, when we moved (to the new facility). With every challenge, they were very patient, very professional."

With their demonstrated professionalism, the interns contributed to building direct relationships between medical providers at the Naval Hospital and their Japanese counterparts on Okinawa, according to Chen.

"They provided over 800 medical translations for patients and staff and completed several important translation projects over the course of the year," said Chen. "They provided basic life support training to over 100 American and Japanese health care providers. They hosted approximately 50 Japanese medical students and physicians during our summer externship program, and coordinated activities for the Okinawan-American Physician Society."

The interns are appreciative of all the support they received and proud to have been part of the Naval Hospital.

"Looking back, this one year definitely exceeded my expectation," said Hiroyuki Suzuki, chief intern. "The experience here has further enhanced our career and our lives."



Japanese interns perform Okinawa's traditional dance with the U.S. Naval Hospital staff during the welcome party held for them at the new hospital facility Oct. 18. 10月18日に新しい海軍病院で開かれた歓迎会で、病院スタッフと一緒に沖縄のカチャーシーを踊る日本人インターン。



(Above) Dr. Soeno Shoko shakes hands with the U.S. Ambassador to Japan Caroline Kennedy at the U.S. Naval Hospital Okinawa Feb. 13. (Right) Dr. Reiichiro Obata conducts triage of the simulate victims of a natural disaster during Exercise Constant Vigilance Oct. 23. (上) 2月13日に在沖米海軍病院を訪れたキャサリン・ケネディ駐日大使と握手する添野祥子医師。(右) 10月23日に行われた演習コンスタント・ビジランスで、自然災害の被害者役にトリアージ(患者の優先順位決定)を行う小畑礼一郎医師。Photos courtesy of U.S. Naval Hospital Okinawa



日本人インターン海軍病院での研修を終える

3月21日、在沖米海軍病院では、日本人インターン卒業式のオープニングを飾る日米両国の国歌が流れる中、6名のインターンが誇らしげに立っていた。彼らは、病院が実践する西洋医学を学び、海軍病院の一員として働くという貴重な経験が詰まった一年を終えたところだった。

プログラムディレクターのジェニー・チェン少佐によると、インターンは同病院の12の診療科を回り、実証に基づいた医療カリキュラムを実践することで腕を磨いたという。インターンはまた、病院に来る日本人配偶者のための通訳や、海軍病院と沖縄の病院との調整役も果たした。

「インターンは、小児集中治療、心臓カテーテル、特定の専門的な手術など、うちの病院ではできないような治療を必要とするアメリカ人患者の搬送を数多くこなしました。沖縄の医師との橋渡しをして、私たちの患者ができるだけ良い治療が受けられるようにしてくれました」とチェン少佐は話す。

インターンの一人、小畑礼一郎医師によると、このインターンシッププログラムは、アメリカで医学を学んだり医療に従事したい人にとっては、いいステップになるという。

「20年以上にわたって卒業生を継続的にアメリカに輩出している、すごく魅力的なプログラムです。日本の修練とアメリカの修練では違うところがあるんですが、僕のやりたい医療はアメリカの方が近いんです。」

海軍病院で英語漬けになって西洋医学を実践することで、英語力も大きく伸びたようだ。インターンの赤峰敬治医師は、「言葉の壁が一番大変でした。でも、今はだいぶ分かるようになったし、英語でディスカッションも

できるようになりました。患者さんの診察をして、その結果を担当の先生に報告し、最適な治療法と一緒に考えるということをしたので、それが英語力を伸ばすことに役立ったと思います」と語る。

今年のインターン卒業生は、予定していた面接の日が台風で襲われたことに始まり、キャンプレスターからキャンプフォスターへの病院の移転など、特に大変なことが多かったと話すのは、アシスタントプログラムディレクターのエヴァン・ウイリアムソン少佐。

「面接の日には台風17号が直撃したため、彼らは安全上の理由から1日面接を遅らせるようにと言われていました。そして、(新しい施設への)移転にあたって当然いろいろ大変な事がありました。その一つ一つに対し、非常に辛抱強くプロフェッショナルな姿勢を見せていました。」

チェン少佐は、彼らが示したプロ意識のおかげで、海軍病院と沖縄の病院の医師や看護師との間に直接良い関係を築くことができた

と話す。「彼らは、患者やスタッフのために800回を超える通訳を行い、1年の間にいくつかの重要な翻訳プロジェクトも完成させました。また、アメリカ人と日本人100人以上に対して基本的な救命訓練を行い、夏のエクスターンシッププログラムには50人以上の日本人の医学生や医師を受け入れ、沖縄・アメリカ医療交流会の活動の調整にもあたりました。」

インターンの方は、これまで受けた支援に感謝し、海軍病院の一員になれたことを誇りに感じていた。「振り返って、この1年は間違いなく自分



Six graduates of the U.S. Naval Hospital Okinawa's Japanese physician internship program listen to a congratulatory message by Lt. Cmdr. Jenny Chen, program director during the graduation ceremony March 21. 3月21日に行われた在沖米海軍病院インターンシッププログラムの卒業式で、プログラムディレクターのジェニー・チェン少佐の祝辞を聞く6名の卒業生。Photo by Hiroko Tamaki

の期待を超えるものでした」と語る鈴木啓之医師。「ここでの経験は、私たちのキャリアと生活をさらに素晴らしいものにしてくれました。」(文 玉城弘子、写真 在沖米海軍病院 / 玉城弘子)



Mayor Tetsuji Matsumoto and Maj. Gen. Charles L. Hudson sign a local implementation agreement Jan. 17 at Camp Kinser. Matsumoto is the mayor of Urasoe City. Hudson is the commanding general of Marine Corps Installations Pacific and Marine Corps Base Camp Smedley D. Butler. 1月17日、キャンプキンザーで現地実施協定に署名する松本哲治浦添市長と太平洋海兵隊基地および海兵隊基地キャンプバトラーの司令官チャールズ・L・ハドソン少将。Photo by Lance Cpl. Elizabeth Case

Urasoe City, Marine Corps officials sign agreement

Lance Cpl. Elizabeth Case

Mayor Tetsuji Matsumoto of Urasoe City and Maj. Gen. Charles L. Hudson, commanding general of Marine Corps Installations Pacific and Marine Corps Base Camp Smedley D. Butler, signed a local implementation agreement Jan. 17 at Camp Kinser specifying procedures for the evacuation of Okinawa residents through the installation in the event of a natural disaster.

The procedures allow the installation to open one or more of its gates, granting citizens a route for immediate and direct passage to higher ground or shelter immediately before, during or following a natural disaster.

“It’s my pleasure to sign the local

implementation agreement for limited disaster preparedness/response access to U.S. Forces, Japan facilities and areas today,” said Matsumoto. “Following the Great East Japan Earthquake, residents highly appreciate this agreement which offers Minatogawa-Sakibaru district and Irijima district the best tsunami response measures, allowing evacuees immediate access to higher ground.”

This agreement is the fifth of its kind between Okinawa officials and Marine Corps leaders and is an important way to ensure the mutual safety of the citizens of Okinawa and the personnel stationed on U.S. installations.

“Disaster preparedness is critical to safeguarding lives and to quickly

recovering from the impacts of a natural disaster,” said Hudson. “The Marine Corps is committed to doing everything we can to be prepared to respond in the event of such a crisis. By treaty we are allies, but by choice we are partners, friends and neighbors. This agreement serves to reinforce our commitment to our friends and neighbors of Urasoe City.”

The signing was also attended by representatives of the Ministry of Foreign Affairs, the Okinawa Defense Bureau and U.S. Consul General Al Magleby. It is another step in preparing the two communities for a successful, unified response to future natural disasters.

浦添市と災害避難実施協定を締結

松本哲治浦添市長と太平洋海兵隊基地および海兵隊基地キャンプバトラーの司令官チャールズ・L・ハドソン少将は、1月17日、キャンプキンザーで、自然災害時に沖縄県民が同基地を通じて避難する手順を定めた現地実施協定に署名した。

この協定により、災害の前後および災害時には基地のゲートが1つまたは複数開放され、付近住民がすぐに高台や避難所に行けることになる。

松本市長は、「本日、災害準備および対応のための、在日米軍の施設・区域への限定的立ち入りに関する現地実施協定に署名できたことを大変嬉しく思います。今回の協定締結は、東日本大震災を踏まえ、いち早い高台への避難を可能にする、港川崎原地区および西洲地区にとって最大の津波対策となり、地域住民も大変喜んでいきます」と述べた。

これは、沖縄県と海兵隊との間で結ばれる5つ目の協定であり、沖縄県民と米軍基地に駐留する人々の相互の安全を確保する重要な方策である。

ハドソン少将は、「災害に備えておくことは、人命を守り被害から迅速に復旧するために非常に重要です。海兵隊は、そのような危機に対処する態勢を整えるために、できることは何でもする決意です。私たちは日米安全保障条約の下で同盟国関係にあります。パートナーであり友人であり隣人であるという関係は、私達自身が選択したものです。この協定は、我々の友人・隣人である浦添市に対する想いをさらに強固にするものです」と語った。

署名には、外務省および沖縄防衛局の代表者やアル・マグレビー米国防総領事も出席した。協定は、米軍基地と地域社会との2つが、自然災害に丸となって対応できるように備えるための一歩となる。(文・写真 エリザベス・ケイス上等兵)

Chatan Town, Camp Foster agree on detailed operating procedure 北谷町とは協定の運用手順に合意



Mayor Masaharu Noguni, right, and Col. Katherine J. Estes stand by an evacuation sign at Camp Foster March 11. Noguni and Estes met to sign an agreement detailing the standard operating procedures for the Local Implementing Agreement. The LIA allows Camp Foster to open its gates to provide evacuees immediate and direct passage to higher ground or shelter immediately before, during or after a natural disaster. Prior to the signing, all in attendance observed a moment of silence to remember the victims and reflect upon the impact of the Great East Japan Earthquake and subsequent tsunami, which struck Japan on this date in 2011. The signing is a critical step to help safeguard the citizens of local communities and reaffirms the commitment of the U.S. to help its neighbors. Noguni is the mayor of Chatan, and Estes is the Camp Foster and Lester commander and commanding officer of Headquarters and Service Battalion, Marine Corps Base Camp Smedley D. Butler. 3月11日、キャンプフォスターで避難の案内板の側に立つ野国昌春北谷町長(右)とキャンプフォスター基地司令官のキャサリン・エステス大佐。野国町長とエステス大佐は、現地実施協定の具体的な運用手順の合意書に署名した。現地実施協定は、自然災害発生時およびその前後に、キャンプフォスターがゲートを開放し付近住民が高台に避難できると定めている。署名に先立ち、出席者は2011年の東日本大震災の被害者を偲び震災の影響に思いを馳せるため、黙祷を捧げた。署名は、地域住民の安全を確保する上での重要な一歩であり、隣人に対する米国の決意を再確認するものである。Photo by Lance Cpl. Pete Sanders

Okinawans, Marines complete bilateral disaster exercise

Cpl. Matthew Manning

The whirring blades of the helicopter cut through the air, as sirens echo throughout the installation. First-responders sprint to assist simulated victims in the aftermath of a disaster scenario.

Members of the Kin Town Office, Kin Town Fire Department, Ishikawa Police Station and the Okinawa Prefec-

tural Police completed a bilateral humanitarian assistance and disaster relief exercise with Marines of Camp Hansen Jan. 29 to increase disaster preparedness.

The exercise scenario was based on the aftermath of a devastating earthquake and tsunami, which could potentially destroy Kin Town's designated evacuation routes and locations.

"Today was our first bilateral disaster-

preparedness exercise between Camp Hansen and the Kin Town Office, Kin Town Fire Department, Ishikawa Police Station and the Okinawa Prefectural Police," said Maj. Andrew A. Merz, Camp Hansen operations officer. "It was designed to improve our coordination and communication with those emergency response entities and create an environment where we can work together

and where we can bring them onto the camp and let them use camp facilities and space in execution of a possible real-world disaster scenario."

Kin Town and Camp Hansen share a close friendship and look to strengthen that friendship by working together to prepare for disasters, according to Tsuyoshi Gibu, mayor of Kin Town.

"I am very glad to participate in this exercise with the Okinawa Prefectural Police and the Marine Corps of Camp Hansen," said Gibu. "Since the Great East Japan Earthquake and subsequent tsunami in 2011, the people of Kin Town have paid more attention than before to disaster preparedness. We always

have to keep in mind to protect ourselves from danger and are strongly required to cooperate with each other efficiently, ensuring the safety of the lives of the people of Kin Town."

Although there is not an official disaster-preparedness agreement between Kin Town and Camp Hansen yet, the exercise will help in developing one, according to Merz.

"I think today went very well, but it is just a starting point," said Merz. "We are only going to get better from here and be able to bring in more capabilities. There will be more things the Marines can do and more things the local authorities can offer as well. We will be able to get to a

more formal agreement in the future." During the exercise, simulated evacuees were brought aboard Camp Hansen by bus, ambulance and an Okinawa Prefectural Police helicopter.

Upon the evacuees' arrival, the emergency responders triaged a variety of simulated casualties and escorted a group of preschool children to a safe location.

"We never know when a disaster will strike and it is important that children are able to listen and follow their teachers, so they can move to safety during a disaster," said Masanori Kinjo, inspector chief of the security section with the Ishikawa Police Station.



Emergency first-responders prepare to transport a simulated evacuee to safety by ambulance during a bilateral humanitarian assistance and disaster relief exercise Jan. 29 at Camp Hansen. The evacuee was flown to the temporary evacuation site on Camp Hansen by the Okinawa Prefectural Police Aviation Unit where emergency personnel were able to triage the evacuee. The exercise marked the first time a helicopter from the Okinawa Prefectural Police has landed at Camp Hansen. 1月29日にキャンプハンセンで行われた二国間人道支援・災害救助演習で、避難者役の人を救急車で運ぶ救助隊員。避難者は、さらに沖縄県警航空隊によりキャンプハンセンに空路で運ばれ、待っていた救急隊員によりトリアージ（治療の優先順位決定）が行われた。沖縄県警のヘリコプターがキャンプハンセンに着陸したのは初めてのことであった。

Photo by Cpl. Matthew Manning

金武町と 災害訓練を実施

ヘリコプターの回転翼がうなりながら風を切り、サイレンの音が基地内に響き渡る中、被災者を救助するために救助隊員たちが駆け出していく。

1月29日、金武町、金武地区消防、石川警察署、沖縄県警は、災害への備えを強化するため、キャンプハンセンの海兵隊員と二国間人道支援・災害救助演習を行った。

演習は、金武町内にある指定避難経路や避難場所までもが被災するような、大規模な地震と津波の被害を想定して行われた。

キャンプハンセンの作戦担当官アンドリュー・A・マーズ少佐は、「今日は、キャンプハンセンと、金武町、金武地区消防、石川警察署、沖縄県とによる初の二国間災害対策演習でした。我々が沖縄の災害対応要員との協力体制やコミュニケーションを向上させることができるように計画されており、さらに実際に災害が起きた時に互いに協力し、沖縄の人々が基地に立ち入り基地内の施設

やスペースを使えるように環境を整えるためのものだった」と述べた。

儀武剛金武町長は、金武町とキャンプハンセンは緊密な友好関係を維持するため災害対策でも協力していくと話し、次のように述べた。

「沖縄県警やキャンプハンセンの海兵隊が行うこの演習に参加できて大変嬉しく思います。2011年の東日本大震災以降、金武町民は以前にも増して災害対策に注目するようになってきました。常に危険から身を守ることを心がけ、互いに効率よく協力して金武町民の安全と生命を守ることが強く求められています。」

金武町とキャンプハンセンの間ではまだ正式な協定は締結されていないが、この演習が協定の策定につながるという。

「今日は非常に上手にいったと思いますが、これはスタート地点にすぎません。今後どんどん改善していき、できることを増やしていきたいです。」

演習では、避難者役の人々が、バス、救急車、沖縄県警のヘリコプターでキャンプハンセンに運ばれた。避難者が到着すると、救急隊などが怪我人役の人々のトリアージ（治療の優先順位決定）を行ったり、保育園の子供たちを安全な場所に案内したりした。

石川警察署の金城正則警備課長は、「災害はいつ来るかわからないので、普段から子供たちが先生の言うことを聞くようにしておき、実際の災害時に安全に行動できるようにすることが重要です」と述べた。（文・写真 マジュー・マニング 伍長）

Marines face Kin Town club in pingpong tournament



Lance Cpl. Jonathan Delacruz strikes the ball Feb. 15 at the Kin Town Education Center Gym during the table tennis tournament between the Kin Town Table Tennis Club and Marines and sailors of Camps Foster and Hansen. 2月15日に金武町教育センター体育館で行われた金武町卓球同好会とキャンプフォスター&ハンセンの海兵隊員や海軍兵との試合で、球を打ち返すジョナサン・デラクルズ伍長。
Photos by Pfc. Donald T. Peterson

Pfc. Donald T. Peterson

The sharp tap of a plastic ball hitting the table is quickly followed by a quick, snapping sound, as the small white pingpong ball is batted across the table just barely clearing the net.

Marines and sailors gave it their all in a friendly table tennis tournament against the Kin Town Table Tennis Club Feb. 15 at the Kin Town Education Center Gym.

“A group of Marines and sailors with Combat Logistics Regiment 3, Combat Logistics Battalion 4 and 9th Engineer Support Battalion have been training on Wednesday evenings to learn and better understand the game (of table tennis),” said Navy Lt. John W. Potter, the chaplain for CLR-3 and CLB-4. “They’ve played in small tournaments before with other Marines. However, I thought it would be a good idea for them to (take on) a more experienced group. Playing with the Kin Town Table Tennis Club is a great opportunity.”

The tournament started with practice matches pitting service members against club members for familiarization.

“I haven’t been playing table tennis that long,” said Pfc. Yu Lee, a motor vehicle operator with CLB-4. “However, I do play normal tennis which really helps, but playing with the Kin Town team really showed me how much more I have to go to improve at table tennis. Their team is extremely good.”

Following the completion of the practice matches, the tournament began.

“The tournament started with five round-robin groups consisting of four players each,” said Potter. Round-robin is a tournament

style in which everyone plays everyone within the same group. “So everyone was guaranteed at least three matches in that stage.”

At the conclusion of the round-robin stage, the competitors enjoyed pizza for lunch.

Then the top three players of each group advanced to a 15-person single elimination bracket. These exciting matches waged on and on, strike after strike, with most of the U.S. players gradually falling to more advanced players of the Japanese club. Some of the long rallies were tiring for the players but fun for the spectators.

“The Marines and sailors are good for

beginner players,” said Kiyoshi Igei of the Kin Town Table Tennis Club. “It was a lot of fun playing against them, and I hope to play with them again in the future.”

It came down to Potter taking on Igei in the final match. After a long, vigorous match, Potter was declared the victor, winning three of the five sets against Igei.

“It was a good match,” said Potter. “I play with the Kin Town team for practice quite often to help better my skills. This was not just a victory for me, but for all of us because we made new friends and that’s what matters the most.”



Sara Li-Chuan Potter (right), a Navy spouse, and Cpl. Reed Hill compete against one another as Cmdr. Kenneth Bonaparte keeps score Feb. 15 at the Kin Town Education Center Gym during the friendly table tennis tournament between Marines and sailors of Camps Foster and Hansen and Kin Town Table Tennis Club. 2月15日に金武町教育センター体育館で行われた金武町卓球同好会とキャンプフォスター&ハンセンの海兵隊員や海軍兵との試合で対戦する海軍兵の妻のサラ・リーチャン・ポッター(右)とリード・ヒル伍長。スコアを付けているのは、ケネス・ボナバルテ中佐。



Marines and sailors of Camps Foster and Hansen pose with members of the Kin Town Table Tennis Club Feb. 15 after the table tennis tournament at the Kin Town Education Center Gym. 2月15日に金武町教育センター体育館で行った友好試合の後、記念撮影するキャンプフォスター&ハンセンの海兵隊員と金武町卓球同好会のメンバー。

金武町の卓球同好会と対戦

白いプラスチックの球がテーブルに跳ねる音が続いて、パシッという鋭い音と共に、その球がネットすれすれにテーブルの反対側へと飛んで行く。

海兵隊員と海軍兵は、2月15日、金武町教育センター体育館で金武町卓球同好会との友好試合に汗を流した。

第3戦闘兵站連隊と第4戦闘兵站大隊の従軍牧師ジョン・W・ポッター海軍大尉は、「第3戦闘兵站連隊、第4戦闘兵站大隊、第9工兵支援大隊の海兵隊員と海軍兵は、卓球のルールを覚え理解するために、毎週水曜日の夕方を練習にあててきました。彼らは、他の海兵隊員と小さな大会に参加したことはありますが、もっと経験を積んだ人たちと試合をするのいいと思ったのです。金武町卓球同好会とプレーできるのは素晴らしい機会です」と述べた。

卓球大会の始めに、米軍人と卓球同好会のメンバーが練習試合を行った。第4戦闘兵站大隊の車両操縦士ユー・リー一等兵は、「卓球は長いことやってなかったけど、テニスは今もしているので、それが役に立ったよ。でも、金武町チームとプレーしてみても、まだまだだつて事がよく分かった。向こうのチームはすごく上手いね」と述べた。練習試合が終わると、実際の試合が始まった。「まず、1グループ4人

の5グループが、グループ内での総当たり戦を行いました。つまり、全員がこの段階で少なくとも3回は試合できるわけです」と説明するポッター大尉。

総当たり戦が終了した時点で、皆でピザを囲んで昼食をとった。

それから、各グループの上位3人が勝ち抜き選を行った。エキサイティングな試合が延々と続き、次々にスマッシュが繰り出されたが、アメリカ人選手は経験の長い日本人選手に負かされ徐々に敗退していった。時には長いラリーになり、選手はぐったりしたもの、観ている方には楽しい打ち合いもあった。金武町卓球同好会の伊芸清さんは、「海兵隊員も海軍兵も、初心者にしては上手いですよ。彼らと試合をするのは楽しかったし、またやりたいですね」と話した。

決勝戦は、ポッター大尉と伊芸さんとの対戦になった。長く激しい戦いの末、ポッター大尉が5セット中3セットを制して伊芸さんに勝利した。

ポッター大尉は、「良い試合でした。上手くなるために、金武町チームとしょっちゅう練習しています。新しい友人もできましたが、それが何より大事なことで、私だけではなくみんなの勝利だと思います。」とコメントした。(文・写真 ドナルド・T・ピーターソン二等兵)



TABLE OF CONTENTS



Ready to respond together pg.18

Members of the Kin Town Office, Kin Town Fire Department, Ishikawa Police Station, Okinawa Prefectural Police and Marines from Camp Hansen stand in formation for the closing ceremony of a bilateral humanitarian assistance and disaster relief exercise Jan. 29 at Camp Hansen. 1月29日にキャンプハンセンで行われた二国間人道支援・災害救助演習の閉会式で、共に並ぶ金武町職員、金武地区消防隊員、石川警察署員、沖縄県庁職員、およびキャンプハンセンの海兵隊員。 Photo by Cpl. Matthew Manning

- 2 | EVENT CALENDAR
- 4 | APPRECIATION LETTER
Okinawa Police recognize Marines' quick action
- 6 | GOOD SAMARITANS
Marines provide aid to injured man
- 8 | ENGLISH PROGRAM
Nago City students, Marines enjoy games, perform skits
- 10 | MUSICAL SUPPORT
III MEF Band performs at international soccer game
- 12 | EVENT HIGHLIGHTS
Big Circle reviews events that foster friendship
- 14 | JAPANESE INTERNS
U.S. Naval Hospital praises accomplishments of Japanese physicians
- 16 | ACCESS AGREEMENT
Urasoe City, Marine Corps leaders ensure evacuation route
- 18 | JOINT EXERCISE
Okinawa, Marine first-responders enhance disaster preparedness
- 20 | PINGPONG
Kin Town citizens, Marines, sailors pit skills, strengthen friendship
- 21 | INTERVIEW

BIG CIRCLE 大きな輪

Big Circle is an authorized publication of the United States Marine Corps. It is published to inform Okinawan community leaders, educators and concerned organizations and persons about U.S. Marine Corps activities on Okinawa and in the region. The contents of Big Circle are not necessarily official views of, or endorsed by, the Marine Corps, U.S. Government or Department of Defense. It is published quarterly by the Consolidated Public Affairs Office, Marine Corps Base Camp Butler. Big Circle is on the Web at <http://www.okinawa.usmc.mil/BigCircle>.

E-mail subscriptions to this publication are available online by visiting <http://www.okinawa.usmc.mil/BigCircle>. Subscribers will receive an e-mail when the latest issue has been posted on the Web. The publication can be viewed in .pdf format online or downloaded.

大きな輪は、米国海兵隊認可の機関誌で、在沖米国海兵隊の活動に関心のある地域の指導者を始め、教育関係者、その他の組織や個人への情報提供を目的として発行されます。大きな輪の内容は、必ずしも海兵隊や米国政府、米国防総省の公式見解であるとは限りません。当機関誌はキャンプ・パトラー海兵隊基地統合報道部 (CPAO) が3ヶ月ごとに発行しています。大きな輪のウェブアドレスは：<http://www.kanji.okinawa.usmc.mil/BigCircle>。

当機関誌ウェブ版をご希望の方は、上記ウェブサイトにあるメールアドレスに購読を申し込んでください。申し込みの方は、ウェブ上に新刊が掲載されると、通知メールを受信するようになっています。ウェブ版はPDF形式で、インターネットで閲覧、またはダウンロードすることができます。

COMMANDING GENERAL
Maj. Gen. C. L. Hudson

PUBLIC AFFAIRS DIRECTOR
Mr. Michael Ard

MANAGING EDITOR
Master Gunnery Sgt.
Charles F. Albrecht

EDITOR
Hiroko Tamaki

EDITORIAL SUPPORT
Megumi Tamaki
Sayuri Toyoda

International phone number
011-81-98-970-9403

International fax
011-81-98-970-3803

MCB PAO
Unit 35001
FPO AP 96373-5001

電話 (098) 970-9403

FAX (098) 970-3803

〒901-2300
北中城村石平在沖海兵隊基地
Bldg. 1, CPAO (UNIT 35001)
大きな輪 編集係

email:
okinawa.mcbb.fct@usmc.mil

海兵隊員に美味しい食事を

今回のインタビューは、メスホール (兵士用食堂) の主任コック、玉那覇信之さんです。

編集者: メスホールではどのくらい働いているんですか？

玉那覇: メスホールで働いて23年くらいになります。那覇にある民間のホテルで働いている時から、キャンプフォスターのメスホールで働くのが夢でした。その後、基地従業員になって警備員として働き始めたのですが、数年後にフォスターのメスホールでの仕事をえました。夢が叶ったんですよ。

編集者: なぜメスホールで働くのが夢だったのですか？

玉那覇: レシピの数が多いので、いろいろな料理が勉強できるんです。例えば、ポテト料理一つとってもいろいろなメニューがあります。それ

に、「レシピはこうだけど君の故郷ではどうなの？」と兵隊に聞くと、「自分の出身地ではちょっと違って、こう料理するよ」と教えてくれる。だから常に新しいメニューを学んでいます。

ただし、海兵隊としては全世界のメスホールで同じメニューを提供しています。ワシントンDCの海兵隊司令部から、時期ごとのメニューが決められた年間マスターメニューが送られてきます。摂取カロリーを一定に保つためです。

編集者: どんどころが難しいですか？

玉那覇: 難しいのは、習慣や感覚の違いです。私はこうした方がいいと思っても、アメリカ人は別の方法がいいと考える時があります。でも、うちのマネージャーは日本人をサポートしてくれるので助かってい

ます。私たち一人ひとりに個人的に話しかけてくれるので、こちらからも話しやすいんです。チームワークをとるためには、コミュニケーションが大切ですが、良いチームワークができてから良い仕事ができていると思います。(ここで働いて) 感謝しています。メスホールでは、日本人従業員一人一人が海兵隊員と一緒に仕事をするので、彼らとの距離が近いんですよ。

編集者: 何人くらい食事に来るとですか？

玉那覇: 1日3食提供していますが、下士官と将校合わせて通常1食あたり400-500人は来ます。ただ、海兵隊員が新しく沖縄に到着した時は、各基地に配属になる前にキャンプフォスターに集められるので、その時は800人にまで増えることもあります。



編集者: やりがいを感じるのってどんな時ですか？

玉那覇: 海兵隊員が仕事を終えた後、食事の場だけでもゆっくりさせてあげたいと思っています。そこで美味しい食事を出してあげて、嬉しそうなる顔を見るのがやりがいです。美味しかったよと言ってくれると嬉しいですね。

Japanese cook prepares meals for Marines

This edition's interview is with Nabuyuki Tamanaha, a cook foreman at the Camp Foster mess hall.

Editor: How long have you been working at the mess hall?

Tamanaha: I have been working at the mess hall for about 23 years. Working at the Camp Foster mess hall was my dream when I was working as a cook at a civilian hotel in Naha. Then I became a master labor contract employee on the U.S. military installation and started working as a security guard, but I transferred to the Foster mess hall a few years later. So my dream came true.

Editor: Why was your dream working at the mess hall?

Tamanaha: Mess halls of-

fer so many menu choices and recipes, I can learn a variety of dishes. For example, if you look at potato dishes, there are so many varieties here. Also, a recipe can call for one thing, but if I ask Marines how they prepare it back in their hometown, they may tell me how they might cook it a little differently where they came from. I am constantly learning new dishes.

However, it's important to note that mess halls across the Marine Corps offer the same menu. Marine Corps headquarters in Washington D.C. sends out an annual plan of master menus for each season of the year to ensure standardized calorie consumption.

Editor: What are the challenges you face?

Tamanaha: The challenge is the difference in customs and ideas. There are times that I may think it's better to do something one way, and Americans may think it's better to accomplish the task another way. But our manager is very helpful and supportive of Japanese employees. He talks to each of us in person, which makes it easy for us to talk to him. I think communication is essential for teamwork, and we are doing a good job because we are a good team. I am very appreciative (of being able to work here). Japanese employees and Marines are very close at the mess hall because every one of us works closely together with Marines side-by-side.

Editor: How many customers do you serve?

Tamanaha: We offer three meals a day and normally serve 400-500 customers at each meal, including both enlisted and officers. The number of customers can increase up to 800 when new Marines arrive on Okinawa because they gather on Camp Foster before they are sent to their assigned camps or installations.

Editor: What makes your job rewarding?

Tamanaha: After Marines finish their work, I want them to relax when they eat. Serving the food they enjoy and seeing their happy faces are the source of my motivation. It makes me happy when they tell me the food was good.

BIG CIRCLE 大きな輪

Spring 2014

**Urasoe City, Marine
Corps sign emergency
access agreement** *Pg 16*

